

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473000691
法人名	有限会社エムアンドエル
事業所名	グループホームひだまり式番館
訪問調査日	平成23年1月20日
評価確定日	平成23年2月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473000691	事業の開始年月日	平成15年9月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	有限会社エムアンドエル			
事業所名	グループホームひだまり式番館			
所在地	(242-0022) 神奈川県大和市柳橋 2-1-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	6名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、現在入居中の利用者の御自宅を増改築した二階建ての一軒家です。庭の一部を畑に耕し、白菜やナス、トマト、キュウリ等の野菜を利用者が栽培し、収穫を楽しんでいます。利用者が6名の少人数なので、お互いが関わりを持って生活しています。そして、利用者同士の励ましあいもあり、和気藹々とした雰囲気があります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年1月20日	評価機関 評価決定日	平成23年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①このホームは平成15年9月に設立された。入居していた利用者の一人がこの家の所有者で、所有者の入居を条件に建物を借用し、増改築してグループホームを立ち上げた。設立時には所有者の姪が近隣の方々にホームの状況を説明し、納得した形で開設しているので近隣との関係も良い。オーナーは設立時点から確たるポリシーのもとにグループホームを経営し、今も変わらぬポリシーで運営を進めている。基本的に利用者さん優先であるが、何でも云うがままといったものではなく、たとえその時点では意にそわないようなことであっても、長い目で利用者さんのためになることであれば、ご家族にも理解を求めて推進する、筋の通ったケアを、自信を持って進めている。
 ②ロケーションは小田急線桜ヶ丘駅から徒歩で10分程度、地域の特性としては静かな住宅地である。自治会長はご自身でもグループホームなどを経営しているため福祉関係に理解があり、色々な意見や助言を頂いている。運営推進会議のメンバーは自治会長、民生委員、大和市職員、地域包括支援センター、地域代表(2名)、ホーム関係者で実施している。地域の行事(親睦会やお祭り)など利用者と共に職員も参加し、特に日中楽しい時間を過ごしている。ホームとしてサービス相談員派遣事業についても、受け入れを行い連携を取っている。
 ③介護に対する考え方(ICFをベースとした考え方)は一貫して変わらない。特徴的なこととして、介護計画の記入方法が挙げられる。計画1をブレイクダウンして計画2を作る点では他と変わらないが、ブレイクダウンした項目に1つ1つ記号を振り、サービス記録を書く時、必ずその記号を振る、記入内容を6段階に分類して内容の段階を区分けする、サービス記録は時間の時系列で具体的内容を記入するなどである。また、姉妹ホーム「ひだまり」同様、職員のほぼ全員が普通救命講習を修了し、大和市消防本部から応急救命手当実施認定施設の指定を受けて、貢献に備えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひだまり式番館
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	希望があれば、いつでも地域の方の施設見学を受け入れている。また、自治会の行事へ参加する等、日常的に地域の方と触れ合うことで、ホームが孤立せず、地域の一員になれるように努力している。	設立当初より地域の方々と接触があり、自治会の行事へ参加する等、日常的に地元の協力体制が確立されている。希望があれば、いつでも地域の方の施設見学等の受け入れを行うなどして、グループホーム及び認知症を理解して頂き、開放的なホーム作りを行っている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事に利用者と職員と一緒に参加させて頂いている。	地域の行事（親睦会やお祭り）など利用者と共に職員も参加し、特に日中楽しい時間を過ごしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、地域の方にも利用者の支援をして頂くこともある。地域の方と職員と一緒に利用者に関わることで、職員の対応等を見て頂き、認知症についての理解を深めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、利用者の情報を提供し、ホームを退去する利用者への関わりを、入所前に関わっていた包括支援センターに依頼する話がまとまったり等、連携を活かした取り組みが出来ている。	メンバーは自治会長、民生委員、大和市職員、地域包括支援センター、地域代表(2名)、ホーム関係者で実施している。自治会長はご自身でもグループホームなどを経営しているため福祉関係に理解がある。いろいろな意見や助言を頂いている。ホームを退去する利用者を、入所前に関わっていた包括支援センターに依頼する話がまとまる等、連携を活かした取り組みが出来ている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催し、事業所の実情の理解と意見を頂いている。また、サービス相談員派遣事業についても、受け入れを行い連携をとっている。	市の担当者も参加する運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、事業所の実情の理解と意見を頂いている。また、サービス相談員派遣事業についても、受け入れを行い連携を取っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解をしており、緊急時の対応については、身体拘束に関する規定を作成している。門扉の施錠は、安全確保の為にやっているが、玄関から庭に自由に出る事が出来る。	職員は身体拘束について理解をしており、緊急やむを得ない場合の対応等についても話し合いを持ち、マニュアルに沿って統一した対応が出来るように取り組んでいる。閉塞感を持たないよう、玄関の鍵はかけず、自由に入出入りして頂いている。庭と道路の間の門扉は施錠し、利用者の危険を回避するように配慮している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての保健所の講習会に毎年参加し、資料を他職員に回覧している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者が入居している。管理者や職員等は、制度を理解している。成年後見制度が必要な利用者の受け入れも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分な説明を行い、納得してサインを頂いている。また、希望により、事前に契約書をお渡しし、検討して頂くことも行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成19年11月より、介護サービス相談員派遣事業を利用している。毎月1回来訪し、利用者と会話し、利用者の気持ちや考え等を聴いて頂いている。家族の意見等は、面会時に職員が伺い、管理者や代表に伝えるように徹底している。	敬老の日など利用者、家族、職員との家族懇親会を開き、情報交換を行い意見や要望を受入れる機会を設けている。平成19年11月より、介護サービス相談員派遣を受け入れ、毎月1回来訪し、利用者と会話し、利用者の気持ちや考え等を聴いて頂いている。家族の意見等は、面会時に職員が伺い、管理者や代表に伝えるように徹底している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は、まず管理者が聴き、他職員の考え等もまとめ、代表に伝えるようにしている。	家族の要望、利用者の気持が少しでも吸い上げられるようにその方の立場になって考え、職員からの意見も聴き、ホームの運営に反映させている。管理者は業務の中で、職員から意見を聴き、必要と判断した時は代表者に進言し、代表者は、朝夕の申し送り時に職員の意見を取り入れた旨を伝え、明るい運営を心掛けている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、平成19年11月より、能力給制度を導入し給与に反映している。また、休みや労働時間の希望を配慮して勤務をたてている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内他市との相互研修や大和市並びに保健所主催の講習を受講するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内他市のグループホームの交流会に参加し、ネットワークづくりや情報交換の場づくりをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学時や入所時に、本人や家族から話を良く聴き、不安や心配に対し、配慮出来るように努めている。また、他利用者との仲をもち、入所時に寂しい思いをしないように心配りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時や入所時に、家族の話を良く聴き、不安や困っている事に対してのホームの対応を理解して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前や入所時の情報収集の時に、本人と家族が必要としている支援と、ホーム側で必要と判断した支援等を含め、ケアプランをたてて介護している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく、残存能力が低下しないように、手を掛け過ぎない介護に努めている。また、料理や掃除等職員と一緒にいき、能力が発揮できるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時や電話にて、利用者の情報を提供し、家族の意向を確認しながら支援することで、共に利用者を支え合う関係をつくっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を家族に伝え、馴染みの人との面会や外出等を行っている。	家族の了承の上、本人がこれまで大切にしてきた人たちの面会の支援を行っている。また、外出については、家族の同伴があれば、自由に出るようにしている。訪問者が片寄る事が無いよう調整し、利用者の要望を受入れて支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が食事やおやつを、一つのテーブルで食べながら会話し、楽しめる雰囲気づくりをしている。そのなかで、利用者同士のトラブル等の解決を支援しながら、互いの関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了前に、今後の方向性について情報を提供している。また、家族が困らないように、他の支援が確保されてから契約が終了している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時、本人に暮らし方の希望や意向を確認し、家族の同意の上で、本人の希望や意向に沿った生活が送れるように支援している。認知症の為、希望や意向に沿うことが、現実的でない事が多く、何度も説明し、納得して頂くように努めている。	入所時（受け入れアセスメント時）、本人に暮らし方の希望や意向を確認し、家族の同意の上で、本人の意向に沿った生活が送れるように支援している。認知症の為、希望や意向に沿うことが、現実的でない事が多く、何度も説明し、納得して頂くように努力している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームの見学や入所時に、本人や家族より情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームの見学や入所時に、本人や家族より情報を収集している。また、実際の状況を生活していく中で把握し、ケアプランに反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話で、利用者の現状を理解して頂いている。その上で、本人・家族の希望を確認し、ホームで出来る支援について説明し、ケアプランに反映させている。	介護に対する考え方（ICFをベースとした考え方）は一貫して変わらない。家族の面会時や電話で、利用者の現状を理解して頂いている。その上で、本人と家族の意向とホームで出来る支援について話し合い、現状に即したケアプランを作成している。利用者の要望が少しでも吸い上げられるように努めている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果は、ケアプランに沿って個別に記録している。気づきや工夫は、申し送り時に職員間で共有している。また、ケアプランの変更等しながらケアしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の半数は、生活保護受給者で家族等、頼れる人がいない状況なので、通院介助や日用品の買出しの付き添い等、必要に応じた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近くの公園へ、他利用者も交えて散歩に行ったり、日用品や衣料品の買い物に行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに往診して頂いている医師がいるが、本人や家族の希望を優先しており、かかりつけ医を変更せず、継続受診も可能として受け入れている。	入居により、かかりつけ医を変更する必要はなく、本人及び家族の希望を大切にし、適切な医療が受けられるように支援しているが、殆んどかかりつけ医にかかっている。かかりつけのクリニックの医師には2週間に1度往診し、利用者の健康状態をチェックして頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師を兼務しており、介護職員からの情報を確認し、日々の健康管理と異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、家族と共に主治医より、病状についての説明を受け、経過等の情報収集し、早期に退院できるように連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。また、主治医の判断の元、終末期を迎えている利用者の家族に、主治医より説明して頂いている。そして、家族の希望を確認しホームでの対応について話し合いを行っている。現在看取りの介護をおこなっている利用者がいる。	入居時に終末期のあり方について、ご家族に理解を促している。ご家族の要望も受入れ、医師の判断に基づき、ホームで出来る対応について話し合いを行なっている。現在、看取りの介護を行っている利用者があり、支援に取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、マニュアルを作成し、対応を徹底させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回以上実施している。また、町内会の行事に参加したり、近隣を散歩しているので、地域の方がたに認知して頂いている。	火災時の避難訓練を年2回以上実施している。地域では、町内会の行事に参加し、認知症の利用者が入居している事を理解して頂いている。利用者は継続訓練を実施している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人に合わせ言葉を選び、他利用者の前で傷つけるような声かけにならないよに気を配っている。	一人ひとりに合った言葉を選び、他の利用者の前で傷つけるような尊厳に配慮し、声かけには注意を払っている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の希望に添うことが出来る事は、本人の希望を確認している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は食事以外は、基本的に一日を居室で過ごしてもホールで過ごしてもどちらを選択しても良い。また、散歩も利用者の希望が優先している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来る利用者は、自分の好みで着脱している。また、利用者の希望で衣類の購入に出かけることもある。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の出来る利用者は、職員と一緒に台所にたっている。味付けをしたり、食材を刻んだりしている。メニューは、希望を考慮し、個人に合わせて変えたりしている。	食事の準備の出来る方は、職員と一緒に台所に立ち、味付けをしたり、食材を刻んだりしてお手伝いをして頂いている。メニューは、個々の希望を考慮し、個人に合わせて食材を変えたりして配慮している。また、食後の片付けは利用者の出来る仕事を分担して、皆で片付けが出来るように支援している。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分量を観察し、利用者の体調管理している。不足している利用者には、声かけし、摂取確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き誘導している。また、自力不可の利用者には職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意や尿意を訴えない利用者であっても、時間誘導する事で排泄の意識づけを促し、排泄の自立につながるように支援している。	便意や尿意を訴えない利用者であっても、トイレ誘導を行い排泄の意識と自立に繋がるよう支援に努めている。また、尿意や便意の有る方は、トイレ誘導している。また、夜間はおむつを使用しているも、日中はリハビリパンツにはき替えてトイレ誘導を行なっている。また、清潔の維持を心掛けて支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の確認を行い、便秘がちな利用者には、水分摂取を増やしたり、散歩を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人で入浴できる利用者であっても、全く見守りも必要ないという利用者がいない為、入浴の曜日と時間を決めて支援している。	入浴は、ホーム側で入浴日と時間を決めて支援している。一人で入浴できる方だとしても、全く見守りが必要ないという方がいない為、見守りは必要と考えた上、楽しむ工夫を取り入れながら支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望により居室で休息したり、職員が利用者の状況を判断し居室に誘導する等で、安心して気持ちよく過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬ファイルを作成し、服薬の管理と症状の変化の観察に努めている。また、二週間に一度の往診時、主治医に状態を報告し、穏やかな生活が送れるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や趣味等の情報を収集し、ホームでも活かせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れた日は、なるべく多くの利用者に声をかけ、散歩に誘導している。また、家族の了承を得て、自由に一人で外出している利用者もいる。自治会の行事は、地域の人々の協力が得られ参加させて頂いている。	庭に生る柿、葡萄、みかん等が利用者を楽しみを与え、戸外に出る機会が多くしている。晴れた日は、なるべく多くの利用者に声かけ散歩に誘導している。また、家族の了承を得て、自由に一人で外出している利用者もいる。地域の行事は、地域の人々の協力が得られ参加出来ている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を個人管理していると、物盗られ妄想につながるため、入居時に家族の了承の元、お金はホームで管理している。例外として、一人で外出許可を得ている利用者については、小額を自己管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は、希望時（相手の迷惑にならない時間）に職員に断り掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家庭での生活を送っているように、室温や明るさは職員が管理している。利用者は、テレビを見たり他利用者や職員と会話し、落ち着いた雰囲気与生活が送れる様に支援している。	一般的な家庭の雰囲気と違いなく、快適に生活できる配慮が随所に感じられる。室温や明るさは職員が管理し、利用者は、テレビを見て寛ぎ、談話する等、気持ちが落ち着き穏かな雰囲気暮らしが流れている。庭には柿、葡萄、みかん等の果物も豊で利用者にとって季節感が楽しめる。事務所のドアを開けると外の景色が見え、ホール等共用空間に居ても季節感や時間の推移が、感じられるように配慮されている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、ひとりになることはできないが、ひとりになりたいときは自由に居室に戻ることができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、御自宅から使い慣れた物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	入居時、自宅で使い慣れた馴染みの家具や衣服、小道具等を持込んで頂き、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の低下につながらないように、出来ることはやっていただくように声かけし、見守るように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームひだまり式番館

作成日 平成23年1月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	利用者の認知症が進行し、介助する事が増えてきている。言葉の理解が低下している為、職員が介助した方が時間の短縮になり、見守る事が少なくなっている。その事が益々出来なくなっていくことにつながっている。 また、他利用者が介助してもらっている事がうらやましく、出来る事でも介助してもらいたがり、介助してしまっている。	認知症の進行や残存能力の低下を遅らせる。	1、チームケアの統一 ○、ケアプランに細かく介助内容を記載する。	随時
				○、見守りと一部介助を統一し介護する。	
				○、ホームの理念の徹底 介助する事が利用者にとって自立支援につながるのか検討する。	
				2、情報の共有 ○、介助内容と結果を記載し、他職員に申し送る。	随時
				3、モニタリングする。 ○、ケアプランの評価を行い、利用者の実際にあったケアプランで介護する。	随時

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。